P15, H03-093662

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 03-093652

(43) Date of publication of application: 18.04.1991

(51) int,C1. C048 28/02 // C048 14/04

E048 1/64

(21) Application number: 01-229216 (71) Applicant: OKUTAMA KOGYO KK

(22) Date of filing: 06.09.1989 (72) inventor: KUREHA SHOZO

KINURA KELICHI KASUYA MASAHIRO

(54) ZEOLITE-BASED MOISTURE CONDITIONING BUILDING MATERIAL

QUADSTRACT:
PURPOSE: To properly regulate indoor humidity and enable both prevention of dew condensation and security of a comfortable space by blending (catcined) zeolite with setting hardenable material.
CONSTITUTION: A zeolite-based moisture conditioning building material, obtained by calcining zeolite regulated to a prescribed grain diameter at 100-700°C, mixing 10-80wt. X resultant calcined zeolite with 90-20wt. X setting hardenable material (e.g. cement) and, as necessary, blending 100 pts.wi. prepared mixture with 0.2-3 pts.wi. fiber reinforcing material (e.g. pulp fiber) and having 0.4-8.7 bulk specific gravity and 10-40kg/cm2 bending strength.

LEGAL STATUS [Date of request for examination]
[Date of sending the examiner's decision of rejection]
[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration] [Date of final disposal for application] [Patent number] [Date of registration] [Number of appeal against examiner's decision of rejection] Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection. Date of extinction of right.

⑩ 日本関特許庁(JP)

图公 題 出 籍 辞 即

②公開特許公報(A)

平3-93662

◎公開 平成3年(1991)4月18日

@int.Cl." C 04 8 28/02 C 04 8 14/04 E 04 8 1/64 裁別起号

庁内整理番号 6791-4 G

6791-4G 6791-4G 2118-2E

審査請求 未請求 請求項の数 2 (金・頁)

参差明の名称 ゼオライト系調道維材

②等 翼 平1-229210

Z

●出 類 平1(1989)9月6日

②発明者 吳明 ②発明者 木村 E E

東京都有梅市節岡町2丁目363-2 東京都西多摩郡羽村町栄町2丁目6-15

答 一 果系都因多學 正 広 東京都東大和

②発明者 铂 倍 正 広 ②出 题 人 类多摩工業株式会社 東京都東大和市南省5-89-19

東京都渋谷区千駄ケ谷5丁目32番地7号 異和新宿ビル

多代 翠 人 井運士 阿 形 明

外2名

88 83 88

1. 残毁の名称 セカライト系線器運行

2. 88820EE

5 世分タイト又は熱水ゼオタイト10~80数 気がと凝集液化材の0~30数量がとを配合して 次をゼクタイト系線路線材。

ま ゼオライト又は概念ゼオライト15~80至 全然と現故策比対25~20至重%との混合物 :33至登略に対し、認識解説対0、2~3至重策を 配合して皮を強対であって、そのかさは重が0、4 ~ 6、7、かつ血が強度が13~40kk/cm²であ ることを特殊とするゼオライト系構築機材。

3、在初の詳細な発明

素素上の料用を登

本無額は、窓内の最繁を透明に顕微して、複響 を放送し、投資器器を確保しうるゼオタイト系類 強強物に弱するものである。

後米の技術

近年,一声独住宅や集合住宅等の運輸の気管性

が異くなったが、そのため各窓内閣あるいは影外 と窓内との間で展度及び最度に差異が生じ、従来 の最額硬化材ではこれらの窓を及び展度の差異の 影響を受ける内壁、天井等の各部所で結蹊が発生 しやすく、進動の快速性や耐久性が低下するのを 免れなかった。

このため、磁変を概率する必要があるが、この 機器方法としては、磁素溶集を冷縮して微磁する か、あるいは異常によって磁変を低下させる方法、 加磁機によって磁度を上昇させる方法、あるいは これらを併用する方法等が行われている。

しかしながら、これもの方法では数力を必要とするし、結構の最も発生する多期には、無常では 変像が然下して快適期に乏しくなるし、米れ級原 変の解の非頻頻度では終露の防止が困難になるの を発れない。

表別が解除しょうとする器器

水飛明は、このような技術の低級硬化材のもつ 欠減を実限し、動力等を発する頻素放を用いるこ となく、裏内の温度を設切に異数して、頻繁を防

34 M ¥3-93662 (2)

出し、快適の間を確保しうるガガライを楽器機器 対を提供することを目的としてなまれたものである。

際窓を解決するための手段

本発気率らは、特別の好ましい性質を有するゼ オタイト系構定送材を研究するために様々研究を 窓にた効果、機能硬化材にゼオタイト又は熱皮ゼ オタイトを所定剤をで配合することにより、窓内 の機変を30~30%機度に調節することが可能 となり、その目的を選索とうることを見出し、こ の処足に返づいて本発剤を完成するに至った。

今のわち、本般的は、ゼオテイト又は概成ゼオ ライトミの一8日東東州と機械硬化村90~2日 東北州とを配合して式るゼオライト系数機械材を 物件するものである。

这下、水条钢を粉架に铁锅する。

※無別において用いるゼオウィトは、実然ゼネ タイト。会成ゼオライトのいずれでも蒸し支えないが、実然ゼネライトが一般的である。また、既 成ゼオライトは、激素これらのゼオライトを粉砕

0.1、如つ当げ激发が 1 0 ~ 4 0 kg/tx*のせま タイトみ観波機材である。

この総数部級対としては、例えばパルブ類録、カーボン総数(炭素総裁)、アラミド機能、ガラス総数などが挙げられ、その配合数は上記ゼオライト級と規格硬化材との返告物188度最低に対し、総常の、2~3度量低、好ましくほの、3~1、6度差別の範囲で選ばれる。この配合数が0・2度量級系統では十分な数度が得られないし、また3度級定を超えると複数効果が不十分となるのを表れない。

発媒の作用、効果

本義別のゼオライト系類複雑材は、ゼオライト 又は蒸減ゼオライト自体の数据孔(乳径は数えで ある)とこれらゼオライトとこれに配合される概 総役はどの間の総乳(繊維硬化材にセメントを 問いた場合の観視の大きさは50~3×10°人 である)との観み合わせによって異級複雑を発揮 すると複雑される。すなわち、これらのゼオライ トの能別孔により水蒸気の異数複が行われ、温度 分級して所定数度に終整したのか、188~188で、 好ましくは49~688でにか続することによって等 られ、通常が保険に当然就否、製造への能令、よ り位置への強制を実際を取したものが好ましく等 いられる。

ゼオウィト又は熱皮ゼメライトの配合象は総総 逆化材を含めたを計量に高いて過常しつ~89歳 量%、好ましくは20~89歳業%の総数で選ば れる。この配金数が10歳数%米級では本発明の 効果が十分に発揮されないし、また80歳条%を 難えると強度が低すするのを含れない。

本に、本発明の他のゼオライト系が服務的だは。 ゼオライト又は概定ゼオライト10~80至後※ と解析を比対80~20至最外との発音的188至 豊田に対し、職務解的対の、2~3度最高を配合 して成る強材であって、そのかさに変が5・4~

を上昇あるいは下降させるとともに、だかかく! と級結果化析との間の成果やで水蒸気が頻報して 貯蔵されるなどの調整が行われ、窓内の匿差の高 い場合には選集を扱い続け、窓内の選差の高い場 合には選集を放出し続けると接端される。また、 これらの最級孔及び網孔は水蒸気等の通路として の機能を果たしているものと機関される。

また、本発明のさらに微鏡を設ける気をしてものよう/では、 まつくと表現を確けは、から比較を続く使ったま ま(別えば無鏡質系機能を付けにセメントを深い た場合の比重はの、4~の、5 である)、超級状態 と減らることなく、近げ強烈をつてある)、超級状態 と減らなったとなる。

したがって、本般的のゼオライト系数数数対は、 室内の最低を選切に残難して、放気を防止し、代 確定限を確保することができ、さらに収取研究が を設まさせたものでは十分な效率を紹外しうるよ いう顕著な効果を終する。

突发突

数は実施数によって本発限をさらに対策に設策

預算等3-93662(3)

7 6 .

********:

セイント10萬条架、石灰20萬条架、ウイ石 50萬条架、バルブ線線1萬条架及び頻度セオラ イト20萬条架をオムエミチサーを用いて複線し たのち、オートタレーブ発生を行い、厚さ20xx のボードを粉成した。

このようにして得られたゼオウィト系数程建材 ポード及びは数のためのセッコウポードを各給付 したA窓及びB窓に、これら両窓に興衰して中央 に設けた保護窓により一定の窓変及び固要を付与 し、これらの窓外の温度をりでに保持して、A窓 及びB窓の各選を観定した。その数果を割1窓 に添す。これから、ゼオライト系額選集材を続付 したA窓は比較用のB窓に比べ鑑点温度でみて2 つ窓低く、そ類の経路の展生しやすい条件下でも 総器を数生しうることが分る。

突紧锁 2

突突突1と関係の各案を用いて、経験室の製<mark>数 及び温度を過業の生活パケーンに含わせて変化さ</mark> せた時の人意及び日本の各級変も態度した。その 結果を制え道に示す。これから、ゼオタイト系級 磁道材を給付した人業は比較用の日本に比べ高点 磁度でみて3つ無く、全筋の熔弧の発生しやすい 条件でも結びを防止したもことが分る。

4. MBOMSCRM

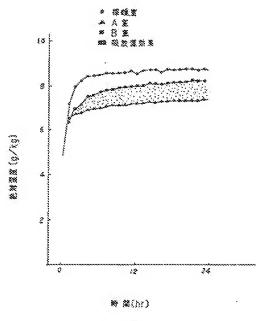
第1回は実際外、の本発質品及び比較品を用い た各室における限数の変化を示すグラク、第2回 は実施所:の本発明品及び比較品を用いた各面に おける別の実験による温度の変化を示すグラフで ある。

特許出額人 美多苯工聚烷类会社

代 唯 人 阿 彩 粥

(经加多级)

M I M



-339-

#3-93662 (4)

M 2 X

